

商社の価値ってなんだろう？

第 11 期 OB 立松 宗磨

タイトルは、最近仕事でよく考えていることです（詳細後述）。

まず、担当は入社以来変わらず自動車・ベトナムです。しかしながら、環境は昨年と大きく変わりました。3月末で5年目の先輩が転職し1人減、その後11月末で昨年は私のインストラクターであった10年目の先輩が産休に入り1人減と、昨年は4人いたベトナム担当が、今やチームリーダー（92年入社）と私の2人だけになってしまいました。人数は減っておりますが、業務が減ることなどももちろんなく、むしろベトナム経済は引き続き好調であり、自動車市場が目下急拡大中の為、業務は増える一方です。これらの要因により、かなり守備範囲広く業務を任せてもらえており、現在の環境には非常に感謝しております。また、今年出張でベトナムに4回、インドネシアとタイに1回ずつ行かせて頂き、この点においても恵まれているなど感謝しております。

さて、タイトルに戻りますが、これを最近よく考えている背景は、外部環境の変化です。取引先の三菱自動車は4月に燃費問題を起こし（タイでこのニュースを聞いて衝撃を受けました）、5月に日産との提携を発表し（寝る直前にネットニュースで見ると衝撃を受けました）、そして直近大きな変革を始めております。日産が入ってきたことにより、これまでの「三菱」という所謂日本企業のカラーは徐々に薄まり、「ルノー・日産」という外資系チックなカラーが強くなってきております。フラットな組織構造、目標に対する強力なコミット、スピード感等、徐々にではありますが、確実に変わってきているのを感じております。このように取引先が大きく変化する今だからこそ、自らも業務を見つめ直し、「商社の価値」を確りと発揮していかねばなりません。今はまだ、産休に入られた先輩から教わった「商社の価値」を発揮すべく業務に取り組むことで精一杯ですが、それを発揮しつつ、私なりの「価値」を見つけていくことが、2017年の課題と考えております（2年目の若造のくせに偉そうですね）。



日本のモーターショーとは雰囲気異なる三菱ブース
@ベトナムモーターショー

これまでの「三菱」という所謂日本企業のカラーは徐々に薄まり、「ルノー・日産」という外資系チックなカラーが強くなってきております。フラットな組織構造、目標に対する強力なコミット、スピード感等、徐々にではありますが、確実に変わってきているのを感じております。このように取引先が大きく変化する今だからこそ、自らも業務を見つめ直し、「商社の価値」を確りと発揮していかねばなりません。今はまだ、産休に入られた先輩から教わった「商社の価値」を発揮すべく業務に取り組むことで精一杯ですが、それを発揮しつつ、私なりの「価値」を見つけていくことが、2017年の課題と考えております（2年目の若造のくせに偉そうですね）。

話は全く変わりますが、弊社では8年目までに必ず一度は海外に行くことになっております。その形態は、トレーニーと語学研修の2種類です。トレーニーとは、海外の現地法人や事務所、事業投資先で半年

から1年働くこと、語学研修とは海外の大学に入り、1年から1年半、その国の言語・文化を学ぶことです。私かというと、後者の語学研修を強く希望しております（国はベトナムが第一希望ですが、どこでも行きたいと言っています）。海外経験のない私にとって、業務ではなく、学生という立場で特定の国にどっぷりと浸かり、言語や文化に触れることができる機会はまたとないチャンスです。私がトレーニーと語学研修のどちらになるのか、いつ派遣されるのかは全く分かりませんが、語学研修であればおそらく遅くとも2018年の初めには派遣されていると思います。つまり、何が言いたいかということ、来年のOB・OG会誌は、海外の大学で書きたいなと思っているということです。



同期の自動車担当と（著者は右側奥から2番目）



三菱商事・伊藤忠商事・丸紅 3社合同ボート大会にて（著者は左端）